

# 実は多いんです、“痔女子”。はじめてのレディース肛門科クリニック受診。



**DATA**  
 松島ランドマーククリニック  
 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 横浜ランドマークタワー7F ☎045-222-5577  
 ⑨9:00~11:30、13:00~15:30 水・日・祝日、年末年始休診

## 体験メニュー

所要時間 診察時間 10分  
 (手術が必要な場合、時間は10分、その後安静時間が必要)

保険 全て保険診療

私にまかせて!



松村奈緒美先生

「松島ランドマーククリニック」院長。肛門科の専門医として、デリケートな女性の悩みにも親身になって答えてくれる強い味方。

放っておいてはダメ!  
**肛門の健康は腸がカギ。**  
 肛門疾患の一つである痔。男性に多い疾患かと思ったら、実は羞恥心から周囲に相談できずにいる「隠れ痔女子」が増えているそう。  
 「痔には、いぼ痔、切れ痔、痔ろうの3つの種類があります。若い女性の場合、いぼ痔と切れ痔の原因は、便秘であることが多いです。痔は原因の根本を解決しなければ、何度でも繰り返ししてしまうため、肛門科では便秘改善のアドバイスをすることも大事な仕事のひとつなんです。」(松村奈緒美先生)  
 当たり前だが、腸と肛門は繋がっている。なかには「ただの痔か」と思っていたら、実は「大腸がん」だったというケースもあるそう。「肛門科には、直腸を検査する器具もありますし、必要に応じて他の病院を紹介することもできます。一人で悩むなら、一度、専門の病院に相談してみるのが大事」

## 2 患部をくまなくチェック!

問診が終わったら、実際に患部をチェックするため診察台へ。診察には、目で異常をチェックする視診→肛門の周囲を触ってみる触診→痔の状態を指で確かめる指診→肛門鏡という器具を入れる肛門鏡診などがある。腸に異常の疑いがある場合には、さらに直腸鏡を使用。こちらの病院では、ベッドに横向きに寝る体勢をとるので、恥ずかしさもありない。

## 1 最初は問診から。

まずは診察室にて問診。「実は痔で…」と、なかなか言いづらい内容も、笑顔の素敵な先生になら気軽に話せる。この際、気になることはなんでも相談!



## 肛門や腸の異常を診る器具はコレ!

触診ではわからない、内部の異常をチェックする、肛門鏡(左)と、直腸鏡(上)。どちらも肛門から挿入するが、器具の先端は便よりも細いので、痛みはほとんどない。



## 薬の使い方だけでなく、便秘改善の指導も徹底。

痔にならないためには、その原因である便秘を改善することがなにより大事。慢性的な便秘に悩む人には、便秘を改善する生活指導や、食事のアドバイスもしてもらえらる。

## 3 症状に応じて薬を処方。

待合室に戻り、処方せんをもらえば診察は終了。座薬と軟膏だけでこんなに種類が。さらに、便秘気味で、便が硬い人に対しては軟便剤も処方してもらえらる。もうこれで痔ともオサラバ!

ちよっただけ緊張する…

「切れ痔であることを誰にも相談できず、悩んでいたという坂巻さん。今回、人生ではじめて肛門科クリニックの門を叩いた。「スタッフが全員女性なので安心感がありました。ベテランの先生が親身に話を聞いてくれ、今まで気になっていたことも心置きなく相談できました。これまで何度か繰り返してきた痔、その根本原因の便秘についてアドバイスをもらえたことが何よりも良かった。特に水分不足を指摘されたので、これから改善していきたいです」

もつと早く来ていればよかった…。(反省)

私がチャレンジ!



坂巻由美子ちゃん(仮名)

28歳・会社員